

2026年度 マネジメント学部
一般選抜 A 日程問題

国 語

2026年2月実施

出題科目	ページ	解答番号
国 語 (100点)	4～19	1～28

注 意 事 項

- 1 選抜開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- 2 問題は4～19ページである。
- 3 選抜中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 選抜番号欄
必ず選抜番号（数字）を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ② 氏名欄
氏名及びフリガナを記入しなさい。
- 5 必要事項欄及びマーク欄に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあるので注意すること。
- 6 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**35** と表示のある問いに対して⑤と解答する場合は、次の(例)のように解答番号35の解答欄の **(5)** にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
35	(1) (2) (3) (4) 5 (6) (7) (8) (9) (10)

- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

国

語

(
解答
番号

1

～

28

)

I 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。

授業の中のトリック

はじめに皆さんを私の大学での授業に招待しましょう。

私の授業ではたいいてい、第一回目にビデオを見せることにしています。最近までは、高畑勲の『おもひでぼろぼろ』を使っていました。

主人公の回想シーンに、小学生のころに、分数どうしの割り算が、どうして割るほうの分数の分母と分子をひっくり返して掛ければ答えが出てくるのかをめぐっての、**a**な疑問がテーマとなるところがあります。このシーンを見た後で、「なぜ、分母と分子をひっくり返せばよいのか」「分数の割り算がわかるということはどういうことか」といった課題を出します。

さあ、皆さんは、答えられますか。少しかだけ時間をとって、実際に答えを紙に書いてみてください。

本当の私の授業では、学生たちに解答用紙を与え、そこに答えを書いてもらってから集めます。そして、翌週、私は、学生たちに書いた文章を返却します。用紙の欄外には、赤いボールペンでAとかBとかCとかDとかかが書かれています。

読者の皆さんだったら、返された解答用紙にこのような記号があるのを見たらどう思うでしょうか。

学生たちは自分の解答を受け取って、こうした記号があることに気づくと、一瞬**A**表情をします。そのうち、喜んだり、**B**様子を見せる学生も現れます。皆さんが、もし「D」と赤字で書かれた自分の解答用紙を返されたらどう思うでしょうか。

全員に用紙を返した後で、私は学生たちにたずねます。

「Aの人は手を上げて……。あまりいませんね」「次にBの人は……」と、手を上げてもらう。たいていCとかDがついていた学生たちは、**C**おすおすしながら手を上げることになりません。

さらに「Aの人は、どう思った？ Dの人は？」などと質問します。すると、Aがついていた学生たちは、「やあ、思ったよりも、よかったです」とか、「うれしかった」などといったコメントをします。一方、CやDの学生は「あまりよく書けなかったの……」などという「言い訳」をしたりします。そこで、しばらく間を空けた後で、私は再び学生たち全員に聞くことにしています。

「ところで、その紙に書いてあるAとかBとかCって何だと思う？」

学生たちはキョトンとして私を見つめます。しばらくすると、「成績ですよね」などといった答えが返ってくる。

「成績って誰がいました？ ただのアルファベットですよ」と私。ここで、学生たちの**D**顔は一層深まります。「昨日君たちの書いたものを読んでいたら、右手が勝手にいたずらして、何げなくアルファベットを紙の隅に書いてしまったんだ。成績じゃないし、とくに意味もない」といいます。

すると、学生たちは、ますます狐につままれたような顔をするようになります。学生たちに聞くと、「だって、赤い字でAとかBとか書いてあったら、それは評価じゃないですか」と答えたりするのです。

そこで私は、「どうして君たちは、大学で使う解答用紙に赤でAとかBとか書いてあると、成績と思うんだろう。ただのアルファベットを成績だと君たちに思わせるものは、何なんだろうか。しかも、君たちの多くはAがBよりもよい評価だと思つたろう。なぜ、Aという記号はBよりもよい評価を表すように見えてしまったのだろうか」と学生たちに質問します。

皆さんが私の教室にいたら、やはり「A」とか「D」とかの記号のついた自分の解答用紙に、**b**するでしょうか。もし、そうした感情を持ったとしたら、なぜ、そう思つたのでしょうか。

小学校から始まる長年の学校生活の中で、学生たちは教師から出された課題は必ず評価されるものであること、そうした評価は、たいいていの場合、赤いペンで、アルファベットや数字などの記号で表現されていること、そして評価には必ず、よい評価と悪い評価とがあることを「知つて」います。

ただの記号にこのような意味を持たせてしまうものは何なのか。通常、「当たりまえ」のこととして通用している、⑦ こうした「もの見かた」をひっくり返し、その見かたを支えているものが何かを考えてもらう。この授業は、そのための「トリック」をしかけた授業なのです。このトリックに引かれることで、学生たちは、「身をもって」自分たちが当たりまえのことからとらわれて現実を見ていること、「常識」にしたがつて、「A」がついていれば喜び、「D」だったらがつかりするといった感情を持つてしまうことを学ぶのです。

そこからスタートして、学校で教師が生徒を評価するとはどういうことか、評価に序列がつけられるのはなぜなのか、つけられた序列を生徒たちはどのように見なすのか、また、そうして序列づけを決めているのは誰なのか、といったことを学生たちと考えていきます。そうすることで、現代の学校が抱えている問題に迫ろうという、授業の導入なのです。

私たちを取り巻く「知識」には、さまざまな層(レベル)があります。分数の割り算のやりかたを知っている層。なぜ、分母と分子をひっくり返して掛けるとよいのか、その理由を知っている層。そして、このような知識を持つていることが、教室の中でどのように評価されるのかを知っている層。さらには、そのような評価のしくみ自体が疑われることのない「当たりまえ」のことからとして受け入れられてしまっている、そのからくりを知っている層。

私たちの普段の生活では、最後に述べたもつとも深いレベルにある知識が表に取り出されて論じられることはほとんどありません。たいいていは、この部分には目をつぶって、ものごとがスムーズに進行していきます。先ほどの例でいえば、あの「テスト」が本当の成績評価の対象であれば、「A」とか「D」とかの記号は評価を示すものとして、そのまま難なく受け取られるのです。

しかし、そこに疑いの目を向けたとたん、日常の私たちの生活が、こうして「当たりまえ」のことがらを基礎にしていることが見えてきます。「当たり前」のものの見かた」を、どうしたらとらえ直すことができるのか。どうすれば「当たり前」のことがらを、自分の頭で考える対象として据え直すことができるのか。私たちの発想やものの見方をしばらくかねない「常識」のとらわれから逃れるためにはどうしたらよいのか。こうした脱常識の視点があることを身をもって知ってもらうために、私は学生たちに、「どつきりカメラ」(ちよつと古いですね!)のような手法を使うのです。学生たちがトリックにはまることで、自分たちがどのような常識にとらわれているのかを知ってもらう。そのための授業の導入なのです。

単眼思考と複眼思考

それでは、複眼思考とは何か。それは普通の考えかたとどう違うのか。ここではいくつかの例をあげながら、さらに詳しく説明していきましょう。

私が教えている東大生の中には、いわゆる中高一貫校の出身者が少なくありません。中学校受験を経て、有名な中高一貫校に入ってから東大に来る。その意味で、長い間自分たちと同じような **c** な集団で育ってきた学生たちが多いのです。このような学生たちは、世間的にいえばたしかに「頭の良い」学生たちなのかもしれません。しかし、学生によっては、なかなか「堅い発想」を持つている場合があります。

たとえば、学生たちと教育の問題を議論するときのことです。ある学生が次のような発言をしました。

「エリート校の出身者は、幼いときから過酷な受験競争を勝ち抜いてくる。そして、競争の過程で、他人を蹴落としてくる。したがって、友だちを作るのがうまくない」

この主張には、受験教育は競争を促すという「常識」と、受験競争は他人を蹴落とすことになるので、友人関係がうまくいかなくなるという「常識」が含まれています。なるほど、世間に **⑦** 流布している受験教育のイメージにしたがえば、このような発想が出てくるのもうなずけます。ほかの学生たちも、この意見に対し、「うん、そうだ」といわんばかりに首をタテに振りながら聞いていました。

しかし、このようなとらえかたは、有名進学校のステレオタイプをもとにしています。進学校を目指して勉強に励む有名進学塾の幼い生徒たち。「必勝」のはちまきをして、テストで一点でも多く取ることを目指す塾の子どもの姿が、テレビや雑誌に登場することがあります。そうした子どもたちのイメージは、幼いころから競争、競争に明け暮れていれば、自然と友だちもできなくなってしまうだろうという「常識」を作り出します。受験教育が批判される場合に、決まって出てくる **⑧** 常套句「受験を勝ち抜いてきたものは、頭はいいかもしれないが、人間的には冷たい」とか、「受験競争は友人関係を打ち壊す」といった「常識」が、こうした学生たちの意見に反映しているのです。

このような意見は、ほぼ毎年のように繰り返されたものでした。ということは、東大生の間では、ある程度共有されている「受験観」といってよいでしょう。しかし、こうしたステレオタイプにとらわれているかぎり、有名進学校の本当の姿は見えてきません。

そこで私は、^④「こういった意見をいう学生に、「それじゃあ、君の周りにいる有名進学校出身の学生はどうだい？」と聞いたりします。場合によっては、意見をいった学生自身が、そういう進学校の出身者であることもありますから、そういうときには、「じゃあ、君自身はどうですか？」と質問します。すると、たいていは、「僕自身は違う」とか「僕の友人の〇〇君はそうでもない」といった意見が出てきたりします。つまり、自分自身や自分の身近な人のことは **d** して、それでもやはり世間に広まっている「常識」にとらわれていたのです。

(荻谷剛彦「知的複眼思考法」より)

※出題の都合上、原文の一部分を改変してあります。

問一 空欄

① A ② D に入れるのに最も適当な言葉を、それぞれ①～⑧のうちから一つ選びなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は A | ①、B | ②、C | ③、D | ④。

- ① 落胆した
- ② がっかりした
- ③ 恥ずかしそうに
- ④ 照れている
- ⑤ うれしそうに
- ⑥ 怒った
- ⑦ 驚いた
- ⑧ げげんな

問二 空欄

a ① d に入れるのに最も適当な言葉を、それぞれ①～⑧のうちから一つ選びなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a | ⑤、b | ⑥、c | ⑦、d | ⑧。

- ① 純粹
- ② 素朴
- ③ 均質的
- ④ 動揺
- ⑤ 一喜一憂
- ⑥ 単一的
- ⑦ 棚上げ
- ⑧ 無視

問三 傍線部

① 「流布」、傍線部 ② 「常套句」の漢字と同様の意味を持つ最も適当な言葉を、それぞれ①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は ① | ⑨、② | ⑩。



問四 傍線部㉞の部分「こうした『もの見かた』とあるが、どのような見かたなのか、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **11**。

- ① 学校教育の評価制度は公平であり、成績は努力の結果を正確に反映するという、制度への信頼に支えられた見かた。制度の信頼性を前提にしている。
- ② 学校教育における序列や競争は避けられず、学力向上のために必要な仕組みだと捉える見かた。競争が教育の質を高めるという考え方に基づいている。
- ③ 学校教育の評価や序列は社会的に守られる規範であり、無視すれば批判されるという仕組みに基づく見かた。評価は社会秩序を維持するための重要な要素とされる。
- ④ 学校教育において、課題は必ず評価され、記号や数字で示されるといふ長年の経験で形成された前提に基づく見かた。評価は学習過程に不可欠なものとして自然に受け入れられている。
- ⑤ 学校教育における評価や成績は確固とした基準に基づき、誰もが同じ結論に達するものとして疑う余地がないとする見かた。評価は絶対的な正しさを持つと考える立場。

問五 傍線部㉞の部分「こういった意見」とあるが、どのような意見か、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **12**。

- ① 教育における競争は避けられないが、友情や協力を重視することで人間関係は維持できるという調和的な意見。
- ② 受験教育が競争を促し、他人を蹴落とす過程で人間関係が悪化するという、世間に広く浸透している常識に基づいた意見。
- ③ 学校教育の評価制度が公平であり、成績は努力の結果を正確に反映するという、教育制度への信頼に基づく意見。
- ④ 有名進学校の生徒は学力だけでなく人間性も優れており、競争は人格形成に良い影響を与えるという肯定的な意見。
- ⑤ 受験競争は社会全体の学力向上に寄与し、個人の能力を最大限に引き出すために不可欠であるという合理的な意見。

問六

筆者が授業で「赤字のAやDといった記号」を用いて仕掛けたトリックの第一の目的として、最も適当な説明を次の①～⑤のうちから一つ選び

なさい。 解答番号は 13。

- ① 学生に分数の割り算の仕組みを理解させ、数学的な知識を深めることで論理的思考力を養い、学習内容を確実に定着させることを目指している。
- ② 学生が記号を評価だと誤解する心理を利用し、学習意欲を高めるために序列意識を強化し、競争心を刺激するという教育の常識を再確認させることを狙っている。
- ③ 学生が評価や記号に意味を見出す背景を問い直し、教育制度や価値観を自分の頭で考えるきっかけを与え、評価に関する常識を批判的に捉える力を育てることを目的としている。
- ④ 学生に成績評価の基準を明確に示し、学習成果を数値化することで公平な評価を実現し、教育における透明性を確保するという常識を強化することを意図している。
- ⑤ 学生に教師の権威を強く認識させ、授業に対する緊張感を高めることで学習効果を上げ、指導の統制力を維持するという教育の常識を再確認させることを目指している。

問七

本文で示された「知識の層（レベル）」の中で、筆者が最も深いと位置づける層の内容を、最も適当に説明しているものはどれか。次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は **14**。

- ① 分数の割り算の計算方法を暗記し、試験で正答する力を持つ層。知識の利用は表面的にとどまり、評価や制度の背景構造、教育の常識に関心を持つ視点は含まれていない。
- ② 数の割り算の仕組みを理解し、その理由を他者に説明する力を持つ層。計算の背後にある論理を把握しているが、評価の社会的意味や制度の前提、教育に潜む常識に関心を持つ視点は含まれていない。
- ③ 学校教育における序列や成績の意味を理解し、教師の評価基準を推測する力を持つ層。制度の運用面に焦点を当てた理解を示すが、評価の仕組みを支える常識や背景構造に疑問を持つ視点は含まれていない。
- ④ 評価の仕組みが常識として疑われずに受け入れられていることを理解し、その背景構造を認識する層。常識を問い直し、社会的枠組みを批判的に捉え、制度の前提を再考する視点が含まれている。
- ⑤ 教育現場での評価が学習者の行動や感情に影響することに注目し、心理的側面を理解する層。ただし、評価制度やその常識の前提を根本から問い直す視点や構造的な分析は含まれていない。

問八 本文で筆者が説明しようとしている「単眼思考」と「複眼思考」の違いについて、最も適当な説明を次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **15**。

- ① 単眼思考は表面的な事象に注目し、背景や構造を深く探ることが少ない傾向がある。複眼思考はその背後にある仕組みや構造に目を向け、なぜそうなるのかを問い直す姿勢を持つ。
- ② 単眼思考は社会に広く浸透している「常識」を前提に判断する。複眼思考はその常識を相対化し、異なる視点や多様な価値観を取り入れることで、より多面的な理解を目指す。
- ③ 単眼思考は一面的な視点にとどまり、物事を単純化して捉える。複眼思考は複数の視点を総合し、固定観念にとらわれない柔軟な発想で問題を考える。
- ④ 単眼思考は自分の経験や社会的イメージに依存し、ステレオタイプに基づいた判断をしやすい傾向がある。複眼思考はそのイメージを問い直し、事実や異なる立場を踏まえて多角的に検討する。
- ⑤ 単眼思考は一つの視点を土台にし、既存の常識や固定観念に沿って物事を理解する。複眼思考は複数の視点を取り入れ、異なる立場や背景を考慮しながら柔軟に理解することを重視する。

II 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A
どうして僕らは時に、喜ばれないプレゼントを贈ってしまったのでしょうか？

プレゼントは嬉しいもの、良いものというイメージがあると思いますが、僕らの日常を考えると、貰って嬉しいプレゼントよりも、貰うと困ってしまうプレゼントのほうがもしかしたら多いと言えるかもしれません。だから最近では、こちらが事前に選んだ具体的なモノを渡すのではなく、相手が好きなものと交換できるギフト券やカタログギフトが贈答品として好まれる傾向にあるのでしょうか。

私が選んだモノはあなたにとって要らないもの、貰ってしまうと困るものかもしれない。
そんな懸念が払拭できないわけです。

あるいは、友人の悩み相談を聴くときも同じようなことが起こるように思えます。ある悩みを持ちかけられる。その悩みに対して、「みんなそんなもんだよ、大したことないじゃん？」と慰めるつもりで、心配ないよと励ますつもりで言ったとする。しかし、そんなやさしさとしての言葉がなぜかその人をより悩ませ、時に傷つけることになる場面がある。

なぜ、あなたの善意は空回りするのか？

なぜ、僕らの「与えたい」という思いはいつも滑稽な一人相撲になってしまっているのか？

どうして他者にやさしさを上手に手渡すことができないのか？

しかし、例えば、アンパンマンは他者へのケアあるいは利他に成功しているように見えます。アンパンマンは周囲の者たちに「僕の顔をお食べ」と言いながら、自身の身体であるパンを差し出します（そして、バイキンマンの良からぬ企てから皆を守ったりもします）。

僕らはケア、利他に失敗するのに、なぜアンパンマンは成功するのか。

それは「空腹」という共通の基盤があるからです。

空腹あるいは飢えというのは、全ての人間、全ての動物に共通の生存課題です。一見、あまりにも当たり前のことを指摘しているように見えるかもしれませんが、そうではありません。現代における、相互の関わり合いの中で、そういった共通の基盤が果たしてどれくらいあるのでしょうか。

どうということか？

現代は「多様性の時代」と言われたりします。多様性とは共通性（あるいは単一性）の反対の概念です。育ってきた環境も違うし、好みも違う。また、こうすれば幸福になれるといった、学歴や就職あるいは結婚に関する大きな物語もなくなってしまい、一人ひとりがそれぞれの物語を生きている時代（あるいはそのように生きなければならぬ時代）でもあります。

a 何より、これまでの人生の中で負ってきた個人としての歴史が違っています。幼少期の生育環境、学校での出来事、ザセツの経験、恋愛における失敗、大切な人との別離、そういった^①ヒアイや恥や罪悪感という「傷」の形と種類が違っているのです。そんな傷の履歴は身体的外傷ほどパツと見て分かるというものではありません。ここに、やさしさがすれ違う理由があるのではないのでしょうか。

アンパンマンがやさしいヒーローであることが可能なのは、そこに空腹という僕らに共通の身体性があるからです。身体という、共通した「大切なもの」が存在しているからです。

アンパンマンは、そんな身体という私の大切にしているものを、共に大切にしようとしてくれる。だとすれば、多様性とは、一人ひとりの「大切にしているもの」の複数性の別名と言えます。

だからこそ、私がいいと思ったプレゼント（大切にしているもの）が、その人にとってはそうでない、という事態が起こるのです。かつて皆が貧しかった時代の環境では、食料を手渡すことはケアであり、利他だった。**b**、食料はあなたと私のあいだで、共通の大切なものだったからです。共通であったからこそ、ケアと利他はすれ違うことなく、うまく機能していた。それに対し、現代では、**B** 共通の基盤、共通した「大切にしているもの」がどれくらいあるでしょうか。

また、多様性の時代とはそれぞれの立場が尊重される時代とも言えるでしょう。だとすると、ここにはある^②ガインがあります。人はそれぞれ立場が異なっている、という前提です。

そしてある一人の主体においても、さまざまな立場を同時に、かつ複数担っているということでもあります。^③ヤクシヨクやポジシヨンという仕事上の立場、母あるいは父という家庭での役割、プライベートの趣味の集まりでのキャラクターなど、一人の主体が、複数の役回りを演じている、複雑な劇のようなものです。だからこそ、ある判断や決断が、組織人としては正解だが、道徳規範に照らした時にはグレーになる、あるいはその逆といった矛盾から生まれる葛藤があるのです。

僕らはしばしば、劇を間違える。

場面と役回りを勘違いし、語り出すべきセリフを間違える。

良かれと思って差し出したものが、ケアするつもりで伝えた言葉が、時としてその人を傷つける。

c それと同時に、僕らは劇を変えることもできる。劇を演じ直すことができる。

例えば漫画『ONE PIECE』のあるエピソードにそれが描かれています（『ONE PIECE』第3巻）。

ある無人島を訪れた主人公ルフィとナミは、その島で独りで生活しているガイモンという（元）海賊と出会う。ガイモンは20年前、仲間とともに宝の地図を手がかりに、この島に上陸した海賊だった。探索の結果、ガイモンは崖の上にある宝箱をついに発見した。しかしその瞬間、手を滑らせて落下

し、崖下にあった空っぽの宝箱の中に落ちてはまってしまい、そこで気を失っていた。ガイモンの意識が戻った時には仲間たちはすでに出発してしまっていて、それ以来20年ものあいだ、独りで暮らし、かつて目にした崖の上の宝箱を開ける日を夢見ていた（ガイモンは宝箱からもはや抜け出せず、崖を自力では登れない）。

未練があり、諦めきれない、あれはおれのものだ、とガイモンはルフィたちに語る。財宝に関するそんな顛末てんまつを聞かされたルフィは「うん!! 間違いない!! そりやおっさんのだ」と言い、ガイモンに代わって宝箱を取って来てあげるために崖を登る。そして、宝箱はたしかにそこにあった。「ここへ落としてくれ」と頼むガイモンに対して、ルフィはほんの少しだけ^④ビミョウな表情をしながら唐突に、「いやだ」と答える。ガイモンに宝を渡さないといいのだ。

「冗談やめて早く落とささいよ!! それ全部!!」と怒鳴るナミに対し、ガイモンはなぜか「いいんだ!! もういい! 渡したくないんなら!!」と答えた。そして、崖の上のルフィに向けて「…お前は…いいヤツだなあ…!!」とつぶやくのだった。

泣きながらガイモンはあることを悟る。というよりも、ずっと前からその可能性を薄々感じていた。

「ないんだろう 中身が…」

全部からっぽだった。地図に書かれた財宝は、ガイモンがこの島に到着するよりも前に、すでに誰かに奪われていたのだった。20年ものあいだ夢見ていた財宝は、ただの空箱だった―。

さて、ルフィは何をしようとしたのでしょうか。

ルフィは、芝居を打ったのです。現実としてそこにあったのは「空っぽの宝箱」でしたが、それをルフィは自分がガイモンから奪うことによって、実在した「財宝」だったことにしようとしたのです。財宝は確かにあったのだが目前で別の海賊に奪われた、そんな劇のプロットに書き換えようとしたのです。

「ガイモン、お前の20年間は何も間違っていない。その夢は、何も間違っていない」と語りかけるかのように。目の前にいる他者の大切にしているものを、共に大切にするために、ルフィは芝居を打った。自分がガイモンから恨まれる可能性が多分にあるにもかかわらず。ここに「ケア」の原型があります。本書では、ケアを次のように定義します。

ケアとは、その他者の大切にしているものを共に大切にすることを。

d

、この定義を採用すれば、ガイモンを前にしたルフィはケアの人なのです。ガイモンをケアするために、ガイモンが20年間見続けてきた

大切な夢を共に大切にするために、ルフィは思わず芝居を打ち、嘘をついた。

このケアの定義から先ほど書いた「良かれと思って差し出したものが、ケアするつもりで伝えた言葉が、時としてその人を傷つける」ということの内実がわかります。これはつまり、その人にとっての大切になっているものを見誤ったということです。

だからここから導けるのは、ケアするためには、その他者が大切になっているものを把握する必要がある、ということです。

(近内悠太 『利他・ケア・傷の倫理学 「私」を生き直すための哲学』より)

※出題の都合上、原文の一部分を改変してあります。

問一 傍線部㉞、㉟の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は ㉞ — 16、㉟ — 17、㊱ — 18、㊲ — 19、㊳ — 20。

㉞ ザセツ

16

- ① 体育で足をコツセツする。
- ② セツブンに豆まきをする。
- ③ 水分をセツシユする。
- ④ 研究のためのカセツを立てる。
- ⑤ 部屋にエアコンをセツボウする。

㉟ ヒアイ

17

- ① 兄弟でヒカクする。
- ② ヒコウキに乗って海外旅行をする。
- ③ 山に登ってヒロウがたまる。
- ④ ヒカンの物事を考える。
- ⑤ ヒコクニンの言い分を聞く。

㊱ ガンイ

18

- ① カコウガンでできた道標。
- ② ガンメン蒼白そうはくになる。
- ③ シガン書を書く。
- ④ ガンカで視力検査をする。
- ⑤ この考えは全てをハウガンしている。

㊲ ヤクシヨク

19

- ① ヤクシマに旅行に行く。
- ② ゴリヤクがある。
- ③ ヤクザイシに相談する。
- ④ 友達とのヤクソクを守る。
- ⑤ ヤクバに書類を提出に行く。

㊳ ビシヨウ

20

- ① 旅行のジュンビをする。
- ② ビセイブツを顕微鏡で見る。
- ③ ジビカに通院する。
- ④ ビジュツ展に行く。
- ⑤ ニチヨウビの予定を確認する。

問二 空欄

a

く

d

に入れるのに最も適切な接続詞を、それぞれ①～⑤のうちから一つ選びなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a | 21、b | 22、c | 23、d | 24。

- ① したがって ② そして ③ しかし ④ なぜなら ⑤ もしも

問三

傍線部 A 「どうして僕らは時に、喜ばれないプレゼントを贈ってしまうのでしょうか？」の問いに対する筆者の回答について、最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 25。

- ① 相手が本当に欲しいものを事前に確認する手間を惜しんでしまい、自分勝手な思い込みで選んでしまうから。
② 相手の困り事を察して先回りするという行為が、相手の主体性を奪うことにつながってしまうから。
③ 贈る側が抱いている「与えたい」という善意や優しさが、相手の「大切にしているもの」を見誤り、空回りしてしまうから。
④ 昔とは違い、現代社会では「空腹」のような共通の基盤や、共通した「大切にしているもの」を互いに共有できていないから。
⑤ 贈り物の価値を金額だけで判断してしまい、気持ちが込められた品物を選ばなくなっているから。

問四

傍線部 B 「共通の基盤、共通した『大切にしているもの』』という性質を本文中ではどのように表現しているか。次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 26。

- ① 単一性
② 多様性
③ 複数性
④ 身体性
⑤ 可能性

問五

傍線部C「ルフィはケアの人なのです」と筆者が結論付けた根拠となるルフィの言動について、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は **27**。

- ① 「ここへ落としてくれ」というガイモンの頼みに対して、「いやだ」と拒否したこと。
- ② ガイモンの代わりに崖を登って宝箱を取りに行ったこと。
- ③ 「うん!! 間違いねえ!! そりやおっさんのだ」と宝箱の持ち主はガイモンであると認めたこと。
- ④ ガイモンの財宝に関する顛末に関する語りを聞いたこと。
- ⑤ 「ないんだろう 中身が…」というガイモンの悟りに対し、ルフィが何も言わなかったこと。

問六

筆者の見解に合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は **28**。

- ① 相手と自分の間に「空腹」のような共通の身体性、共通の基盤を築くことが、ケアを成功させる上で最も重要である。
- ② 相手が大切になっているものは何かを、深く理解し、その価値観を踏まえることが、相手をケアする上で最も重要である。
- ③ 相手との関係性や立場の違いにこだわりすぎず、自分の善意や優しさを一方的に差し出すことが大切である。
- ④ 善意や優しさが空回りして相手を傷つける可能性があるため、他者への働きかけは控えるべきである。
- ⑤ 多様な価値観が尊重される現代社会において、他者の大切にしているものを共に大切にする「ケア」は本質的に不可能である。

2026 年度 マネジメント学部 一般選抜 A 日程

国語 (マークシート式・60分・100点)

大問	小問	細分	正解	配点	大問	小問	細分	正解	配点
I	問一	1	㉞	2点	II	問一	16	①	2点
		2	②	2点			17	④	2点
		3	③	2点			18	⑤	2点
		4	⑧	2点			19	⑤	2点
	5	②	2点	20			②	2点	
	問二	6	⑤	2点		問二	21	②	2点
		7	③	2点			22	④	2点
		8	㉞	2点			23	③	2点
	問三	9	③	2点			24	①	2点
		10	②	2点		問三	25	④	9点
	問四	11	④	5点		問四	26	①	5点
	問五	12	②	5点		問五	27	①	9点
	問六	13	③	6点		問六	28	②	9点
	問七	14	④	6点					
	問八	15	⑤	8点					